

第147回国際高官セミナー閉講式における告別の辞

マルシオ・シフラー・フォンテス

(ブラジル・サンタ・カテリーナ州司法局トゥルボ地方裁判所判事)

外交団の皆様、アジ研所長佐々木正輝様、次長宇川春彦様、法総研所長清水治様、JICA東京国際センター次長野田久尚様、アジ研の教官及び職員の皆様、JICAの職員の皆様、ご来賓の皆様、セミナー参加者の皆様、

お別れの言葉を述べる 때가きました。

すべての大陸から此処アジ研に集い、第147回国際高官セミナーに参加した司法、警察、矯正の分野の高官を代表して、日本政府、国民、JICA及びアジ研に対し、このような機会を与えていただきましたことに、心からの感謝の言葉を申し上げます。

我々のセミナーは、犯罪者処遇における社会との連携という主題について国際社会の経験を共有することを目的としていますが、その目的は完全に達成されたことをここにご報告します。社会との連携を促進することは、刑事司法システムの透明性と社会に対する説明責任を増進し、再犯の防止と社会安全の向上のためにより効果的であります。

我々のセミナーの成功は、多くの人々に支えられたものでした。まず、調理スタッフの方々は、真のブリゲード・ド・キュイジーヌであり、親身にお世話をしていただきました。アジ研職員の方々には、我々の東京、広島、山口及び京都への旅行に同行していただくとともに、アジ研の内外を問わず、明朗で、親切で、協力的にさせていただきました。

日本人の同僚は、我々の滞在をより快適で、楽しく、思い出に残るものとするために、平日だけではなく、家族との時間を犠牲にして週末まで付き合ってくださいました。

さらに、カナダ、ニュージーランド、シンガポール、英国、ウガンダ及びタイからの客員専門家に素晴らしい講義をしていただいたことに、より深く感謝しなければなりません。

最後に、佐々木正輝所長と宇川春彦次長は、素晴らしいリーダーシップと効率的な監督能力を発揮されたことを述べさせていただきます。

ただその前に、渡部淳一主任教官と山本美樹JICE研修監理員は、すべての面において計り知れない活躍をされ、我々に適切な指導をされたことについて、特に強調

させていただきます。

我々参加者の究極の目的は、それぞれの国の司法運営を改善するため、カウンターパートとの国際的なネットワークを構築することです。

この目的を達成するために、日本が私たちにしてくれたように、お互いに情報を交換し、刑事司法システムについての知識を共有していきたいと思います。

このセミナーでは、日本の関係機関と活発な意見交換をすることができ、最高裁判所、東京地方裁判所、東京地方検察庁、府中刑務所、美祢社会復帰促進センター、京都保護観察所、広島と京都の更生保護施設などの多くの機関を訪問することができ、日本の刑事司法システムを直接垣間見ることができました。

皆様、

私は、人前で話をするとき、裁判官は話すことではなく聞くことで給料をもらっていることを忘れないよう、いつも心がけています。

しかし、今夜は、これだけは言わずにおられません。

1か月前、初めて日本の土地に降り立ったとき、私は、正直で勤勉であるという日本人の評判を確かめたいと思っていました。

わずか30日後、それは私の予想をはるかに超えていたと、何の誇張もなくいうことができます。それだけではなく、あなた方のホスピタリティ、親切、寛大さは、良く知られた日本人の長所をはるかにしのぐものでした。

ホストの皆様、ご来賓の皆様、

我々は今アジ研を去らなくてはなりません。しかしながら、アジ研ファミリーの一員として、我々の一部をここに残し、また、アジ研の一部を我々とともに持ち帰りたいと思います。

この日出ずる素晴らしい国とその高潔な人々に長きにわたって平和と繁栄があらんことをお祈りいたします。

ありがとう。

ありがとう。

ありがとうございました。